

ランス豆知識

その3. ランスの微笑



「ランスの微笑」L'ange au sourire 1260-70頃。 <https://commons.wikimedia.org>

世界文化遺産都市ランスの建築物の中でも、ひととき荘厳な「ノートルダム大聖堂」。1211年に着工し、複数の建築家が100年をかけて完成。歴代フランス国王が戴冠(聖別)式を行い、また、藤田嗣治が洗礼を受け、「レオナルド・フジタ」となった場所でもあります。

その建築とともに有名なのは、壁面を飾るゴシック彫刻の数々。2,303点の像のうちでも、「ランスの微笑」という愛称で親しまれる微笑む天使の像は、それまでの彫刻にはなかった「人間味のある」表情で、ゴシック彫刻の転換点となったと言われており、哲学者ジョルジュ・バタイユも処女出版作「ランスの大聖堂」でその感情表現の豊かさに言及しています。ほかに、ギリシア・ヘレニズム美術に近い「擬古的」様式の完成形と言われる「訪問のマリア」(1230-35)などが有名です。

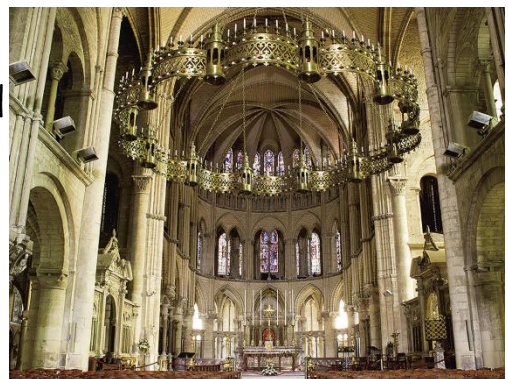
参考文献:

「西洋美術全史Ⅶ ゴシック芸術」F・ドイヒラー/著, 勝國興/訳, グラフィック社, 1979

「ランスの大聖堂」ジョルジュ・バタイユ/著, 酒井健/訳, 筑摩書房, 2005

ランス市公式HP <http://www.reims.fr/>

ウィキメディアコモンズ <https://commons.wikimedia.org/>



ノートルダム大聖堂
(名古屋市観光文化交流局提供)